

公 益 財 団 法 人
日本中國国際教育交流協会

【2021年度の歩み 会報第28号】



2022年3月発行

■卷頭言 公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表理事 中村武志	2
 ■教育交流事業	3
□教育交流・派遣事業	3
□教育交流・受入事業	3
□教育交流・支援事業	3
◇河北省保定市阜平県音楽教育支援	
(1) 2021年度教育支援に関する協定書	
(2) 楽器購入リスト	
□教育交流・研究等助成事業	7
◇第17回日本語作文コンクール	
教育賞受賞作品	
テーマ：私はこう考える！ポストコロナの日中交流	
「私はこう考える！ポストコロナの日中交流」 黄舒晨 浙江外国语学院	8
テーマ：伝えたい！「新しい交流様式」実践レポート	
「桜便り」 朱雅蘭 上海大学	9
 ■機関関係	11
(1) 2020（令和2）年度事業報告	11
(2) 2020（令和2）年度事業・会議報告	12
(3) 2021（令和3）年度事業計画案	14
(4) 2021（令和3）年度収支予算書	15
(5) 2021（令和3）年度役員・評議員・公益事業審査員名簿	17
 ■表紙写真	18
【左】中国山東省泰安市東平県夏謝小学校音楽授業 (第17次訪中団・第3回日中音楽教育交流会写真)	
【右】山梨県笛吹市立春日居小学校音楽授業 (第5次宋慶齡基金会教育交流代表团・第4回日中音楽教育交流会写真)	
■協会の歩み	
■編集後記	表紙3

卷頭言



公益財団法人日本中国国際教育交流協会
代表理事 中村 武志

公益財団法人日本中国国際教育交流協会の事業に対しまして、日頃より多くの方々の励ましやご支援を賜り心から御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は未だ収束せず、当協会も事業の多くが実施できない状況が続いています。そんな中ではありますが、昨年度は宋慶齡基金会との間で新たな協定を締結し保定市阜平県に「教育支援金」を贈ることができました。今後の感染状況にはよりますが、人的交流を含むスタート地点を確保することができたと思います。

また昨年末には久しぶりに対面による理事会・評議員会が開催でき、忌憚のない意見交換を行うことができました。その中では、「教育支援と教育交流が事業の二本柱。感染状況が改善されしだい相互訪問等の人的交流を実施していく必要がある」との意見も出され、事業継続の必要性を確認しあえたと思っています。評議員・理事・監事の皆様はもとより、事業が十分に展開できない中にあっても当協会をお支えいただいているすべての皆様にあらためて感謝申し上げます。

この稿を書いている2月末、ロシアがウクライナへ軍事侵攻しました。続々と報じられる「戦地」の様子を見るたびに私は誰もが望む「寛容と連帯・協調そして平和な世界」とは程遠い現状を嘆き悲しむとともに、先人たちの次の二つの言葉が頭に浮かびました。「(教育の力によって)人々の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「(世界の平和と人類の福祉の)実現は根本において教育の力に待つべきものである」。当協会は小さな団体ですが、「教育」を看板に掲げる以上決して大きすぎる目標とは言えませんし、それらを追求する資格と責任もあると思っています。

厳しい時代だからこそ、思うにまかせられない今だからこそ、議論と学習を重ね、多くの方々の理解に支えられながら「状況」と「身の丈」にあった活動を引き続き展開していくかなければならないと考えます。

最後になりましたが、今後とも、多くの都道府県の教育関係者の方々のより一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

教育交流事業

2019年度までの5か年計画の中で、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる山東省泰安市東平県における「教育交流プロジェクト」の推進を中心に、草の根教育交流をより深く、多様に発展させることができました。2020年度には、中国宋慶齡基金会との「新たな教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、教育交流実施地を決定し、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れ準備と、「第5回音楽教育交流会」の実施等の取り組みを進める予定でした。しかしながら、新型コロナ感染症の流行拡大の中で、実際に中国を訪問することもできず、宋慶齡基金会とのリモートによる協議の中で、やっと教育交流実施地の決定を行いました。また、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪を広げてきた、「第8回教育交流ホームステイ」事業、「日本語作文コンクール」との関わりを持たせながら取り組み、日中の青年相互の理解を深める上で大いに成果を上げてきた、「第5回教育交流シンポジウム」の開催も中止せざるを得ませんでした。さらには、懸案になっていた「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした取り組みとして考えていた、「留学生による日本語作文コンクール」も、実施までこぎつけられませんでした。様々な取り組みが、「コロナ禍」において、ことごとく実行不可能となってしまいました。

□ 教育交流・派遣事業

中国宋慶齡基金会との協議の結果、河北省保定市阜平県を、「新たな教育交流プロジェクト」実施地に決定しました。しかし、残念ながら訪中することは現実的に無理な状況の中で、「事務局訪中」「視察研修訪中団」の実施ともできませんでした。次年度は、何とか派遣事業を実施したいと考えています。

□ 教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定されたが、残念ながら交流の内容が具体化されていません。しかしながら、宋慶齡基金会を通しての阜平県との確認では、今まで易県や東平県で行い実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流をする中で、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

□ 教育交流・支援事業

◇河北省保定市阜平県音楽教育支援

新たな「教育交流プロジェクト」の初年度として、河北省保定市阜平県への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円／年で行っていくこととしました。

(1) 2021年度教育支援に関する協定書

協定書

宋基会法字(2021)188号

甲方：公益財団法人日本中国国際教育交流協会

法定代表者：中村武志

連絡先：赤岡直人

電話番号：0081-55-269-6533

メールアドレス：info@ajciee.or.jp

住所：400-0031 日本国山梨県甲府市丸の内 2-32-16 甲府丸の内マンション 302

乙方：中国宋慶齡基金会

法定代表者：李安晋

連絡先：王璐璐

電話番号：0086-10-86601945

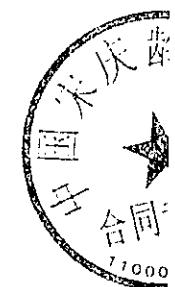
メールアドレス：wangll@sclf.org

住所：中華人民共和国北京市東城区東安門大街 82 号

甲方公益財団法人日本中国国際教育交流協会と乙方中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好のため、特に中国で経済発展途上地域の子どもの福祉のため、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

第一条（目的及び用途）

1. 甲方は、中国河北省保定市阜平県の児童・生徒に対する音楽教育支援を乙方を



通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。

2. 甲方は、乙方、中国河北省保定市阜平県教育局と共に、日中小学校の音楽教師による日中音楽教育交流会を開き互いに学び合う機会を計画する。

第二条（送金及び報告）

1. 2021年、甲方は中国河北省保定市阜平県の小中学校の音楽教育にかかる教育条件・教育レベルを改善するため、及び、日中音楽教育交流会の実施計画準備のために100万円を送金する。

2. 甲方は2021年11月30日前に100万日本円を乙方の指定口座に振り込む。乙方は振込を受け次第、100万日本円を河北省保定市阜平県教育局に送り、当地小学校音楽教育の振興と日中音楽教育交流会実施に向けての準備等に使う。

3. 乙方は2022年2月28日までに、実施報告（具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む）を甲方に提出する。

双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語と中国語共に各二部を作成し、双方の代表が署名捺印の上、それぞれ一部を保存するものとする。

甲方(捺印)：

法定代表人或いは授権代理人

(サイン)：

中村武志

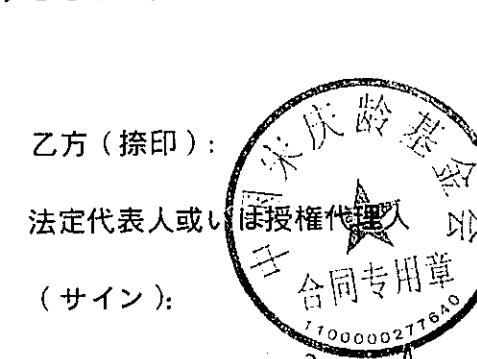


乙方(捺印)：

法定代表人或いは授権代理人

(サイン)：

宋慶齡



2021年11月30日

2021年11月15日

(2) 楽器購入リスト

阜平县平阳镇山咀头小学音乐器材需求统计表							
编号	種類名前	規格 型号 功能	単位	単価(元)	数量		値段(人民元)
01	音楽教室専用設備						
02	五線音楽教学黒板	2mX1m	块	410	1		410
04	リズム用具		台	800	1		800
05	教具						
11	音叉	音频440赫茲	个	15	1		15
12	多用画线规		套	35	1		35
13	学生用楽器						
14	响板（響板）		付	8	16		128
15	木鱼（木魚）		套	52	1		52
16	碰钟（鐘、パーカッション用）		付	24	2		48
17	双响桶（ダブルパケット）		付	8	5		40
18	串鈴（リングング）		付	10	10		100
19	二胡（二胡）		把	200	20		4000
20	横笛（横笛）		个	260	10		2600
21	月琴（月琴）		把	365	1		365
22	扬琴（センチエン）		台	2000	1		2000
23	唢呐（ねえ）		个	125	2		250
24	笙（笙）		个	125	2		250
25	大提琴（チェロ）		个	2000	1		2000
26	竖笛（縦笛）		个	15	16		240
27	小军鼓（小さい軍太鼓）		面	100	16		1600
28	大军鼓（大きい軍太鼓）		面	100	16		1600
29	小号（トランペット）		把	100	16		1600
30	大军镲（アーミーハイアル）		付	160	16		2560
31	钢琴（ピアノ）		台	11500	1		11500
32	架子鼓（ドラム）		套	5000	1		5000

編號	種類名前	規格 型号 功能	単位	単価(元)	数量	値段(人民元)
33	三角鐵（トライアングル）		付	8	1	8
34	沙錘（砂のハンマー）		付	25	1	25
35	小锣（小さいゴング）		个	45	1	45
36	大锣（大きいゴング）		个	71	1	71
37	小堂鼓（小さい太鼓）		个	63	1	63
38	小钹（シンバル）		付	50	20	1000
39	铝板琴（アルミ板琴）	低音、中音、高音	套	62	1	62
40	関係設備					0
41	教学音响系統（教学オーディオシステム）		套	2100	1	2100
42	收录机（レコーダー）	立体声	台	800		0
43	音乐六面発（音樂六面体）	30X25.5X41	个	45	100	4500
44	音乐器材柜（音樂キャビネット）	1800*390*890mm	个	980	5	4900
45	汇总（合わせ）					49967

□ 教育交流・研究等助成事業

- ◇「第9回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウィルス感染拡大にかかる様々な影響（留学生が日本に来れない）で、「今年度も実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。
- ◇今年度は何とか初めての試みとして、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施しようという計画でしたが、これも「コロナ禍」で進みませんでした。昨年ベトナム大使館へコンタクトを取る段階まで話が進んでいたので、さらに具体化していきたいと考えています。今後、新型コロナウィルス感染の動向を見ながら積極的に進めています。
- ◇「第5回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまくを関わりを持たせながら開催してきましたが、昨年度と同様に、作文コンクールの最優秀賞者が来日できず、また、留学生が多数参加しての学習会を開ける条件が整わず、中止することとなりました。以前から、「大変意味のあるシンポジウムで今後の取り組みに大いに期待する」というようなご意見ご感想を多数いただいておりましたし、今後は中国大使館からも参加していただこうと考えていた矢先だったので、大変残念でしたが、来年度こそは開催をと考えています。

第17回日本語作文コンクール（教育交流 研究等助成事業）

2021年度第17回日本語作文コンクール（日本橋報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国各地の165の大学・専門学校・高校等から計3198作品の応募がありました。

日中関係は、平和友好条約締結40周年という記念すべき年を経て、その強化をさらに加速させなくてはならないと思っています。そうした中で、前向きな両国関係を創り出そうという取り組みの一つとして、中国で日本語を学ぶ若者たちの日本語学習熱や日本への関心の高まりを、よりリードしていくためにも、この作文コンクールの開催の意味は大きいと思います。

今回の作文のテーマは、(1) 私はこう考える！ポストコロナの日中交流、(2) 伝えたい！「新しい交流様式」実践レポート、(3) アイデア光る！私の先生の教え方、でした。テーマ別の応募本数は、(1) 1911本、(2) 676本、(3) 611本と、(1) が圧倒的に多くなりました。やはり日本語を勉強している中国人は、日中交流に高い関心があるようです。

協会は、積極的にこの事業を後援し、毎年審査に加わり日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。本年度の教育賞は、以下の方々になりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞（各5万円）

黄舒晨 浙江外国语学院
朱雅蘭 上海大学

(1) 教育賞受賞作品

テーマ：私はこう考える！ポストコロナの日中交流

私はこう考える！ポストコロナの日中交流

黄舒晨 浙江外国语学院

2019の末から新型コロナウイルスが流行し始めました。得体の知れないウイルスに世界は恐れ、学校が休校になり、自由に外出が出来なくなりました。東京オリンピックが延期、当たり前だった自由や繁栄が脆く崩れ、グローバル化のリスクが露呈、経済もマイナス成長へ落ち込んでいます。この予想だにしなかった新しい時代に、国際的な交流もさらに難しくなりました。その原因の一つはもちろん新型コロナウイルスだと思いますが、ウイルスよりもっと恐ろしいもうひとつの原因、それは「コロナ差別」だと思います。

去年、海外に留学している友達李くんはコロナ禍で「中国に帰れ！」と言われました。帰国した李くんにそれを聞いたその一瞬、私は腹が立ってたまらなかったです。しかし、李くんはあっさりしていて、笑いながら私にこう言いました。「傷ついたり腹を立てたりするのは当然ですけど、僕は国外にいる時にはその国の人たちから見れば中国を代表しているですから、あんまり激しい反応をすれば騒



ぎがもっと大きくなります。それに、もともと外国人への誹謗中傷はありましたけどね。どの国でもいい人と思われる人がいるわけですから、そんな人を無視したほうがいいと思いますよ。」彼の言葉で私が釈然として、思わず同じように差別の問題が起きていた東日本大震災の時のことを思い出しました。

当時、地震と津波に死の淵まで追い詰められていた、特に原発事故のあった町出身の人たちが住み慣れた故郷を離れて、親しかった友だちとも離れて生活しなければなりませんでした。辛いことはそれだけではなくて、また、引っ越しした先でも「原発避難者差別」にさらされました。「放射能がついちゃうから原発避難者に近寄らないで」というような心ない言葉に傷付いた人もいました。また、この震災のために転校しなくてはならなかった子供たちが学校でいじめられることもありました。東日本大震災と似通った今回のコロナウイルス、発生地と言わわれている武漢市の人たちも同じようなことをされました。また、海外の中国人の人もいろいろな冷ややかな目つきをされたり、傷つくことをいわれたりして、さまざまなどで偏見や差別や誹謗中傷を受けて苦しんでいます。

新型コロナウイルスは実に怖いものです。けれども、このコロナ禍のおかげで、中国と日本は「山川異域、風月同天」という橋を築き上げました。国家間の偏見や差別を根絶することはできませんが、いまこそみんなで手を携えて協力して共に困難に立ち向かい、この状況を乗り越えていくべきだと思います。このコロナ状況下で直接的な交流は難しいものの、インターネットやアプリを通して私たちはいつでもどこでも誰とでも交流することができます。このような方法によって国や国籍を越えた交流を促進し偏見をなくすのが今の時代の一番いい方法だと思います。

私は高一の時、ネットで偶然出会った日本人の鍵谷さんと仲良くなりました。知り合ってからこの三年間もよく話したり、鍵谷さんに日本語の問題を聞いたりしています。私が持っている視点だけでは簡単には見えてこなかったことも、遠い国に暮らしている鍵谷さんと話することで新たな視点で見えるようになって、それまでの日本に対する見方もだんだん変わってきた。彼との交流を通して、それまでの自分の思い込みとは全く違う本当の日本が見えました。先日、「コロナ差別」について話を聞いて、彼の言った一言が私をすごく感動させました。「私たちが戦うのはウイルスであって、人ではありません。」コロナで私たちの失ったものは数えきれませんが、手に入れたものも沢山あると思います。コロナ禍と呼ばれる時代にあっても、若い世代を中心に交流を促進し、それによって偏見や差別を防ぐこと、そしてこうした交流の意義がみんなに広まることを願っています。

指導教師：陳新妍

テーマ：伝えたい！「新しい交流様式」実践レポート

「桜便り」

朱雅蘭 上海大学

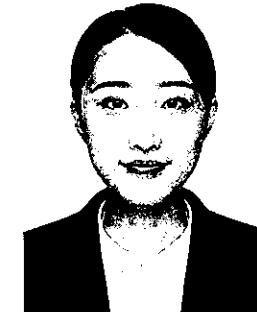
白桜のたよりが届いたのは、ポストコロナの言葉が生まれた頃だった。

留学先でお世話になった日本人の先生は毎年、春のご挨拶とともに、桜の写真を送ってくださる。それは、時には街並みで綺麗に咲いた染井吉野だったり、校庭ですくすくと育てられた大島桜だったりで、中国にいても日本の桜を堪能できる、春の始まりを告げる風物詩である。

去年も例年同様、卯の花が満開の頃、「白桜のたより」が届いた。今年は白桜だと思いつつ、先生からのたよりを開けてみると、どこか見たことのある白桜の写真とともに、前回の読書会の小冊子が同封されていた。

お花見の季節になると、白桜の名所と呼ばれる東京杉並区荻窓の角川庭園で、読書会が開かれる。先生が振る舞ってくださる抹茶と和菓子を楽しみながら、留学生と日本人学生が、一冊の本をめぐり、お互いの感想を話し合う。終わった後、先生がそれぞれの感想文を校正し、記念として小冊子にまとめる。

白桜を見るたびに、角川庭園の読書会のことを思い出してしまう。たよりに染み込んだ白桜の香りが、遥々海を越えて漂ってきたような錯覚を覚え、今までただの参加者だったわたしは、今度、司会に挑戦してみたくなった。



その夜、次回の読書会で司会に立候補したい旨と、オンライン読書会の開催の可否について先生に提案した。早速、先生から快諾を得たわたしは、本の選定について参加者に尋ねたり、絵が上手な友達に読書会のポスターの作成を頼んだりして、準備は順調に進んだ。

いよいよ司会者デビューの日がやってきた。コロナでやむを得ず取り消しとなった春の読書会は、オンラインという新しい形に変わるとともに、初めて秋の開催となった。多少の緊張もしながら、読書会は着々と進んだ。

すると、初めて読書会に参加したある中国人留学生の女の子が、感想を発表する際、緊張のあまり言葉を詰まらせてしまった。どのように日本語で自分の感想を言えばいいか困っているようだった。

「大丈夫。思いついたことをそのまま話して。わからない言葉があったら中国語でも大丈夫。わたしが通訳するから。」

わたしは、彼女に応援の声を送った。それから、緊張でこわばった画面越しの彼女の表情が少し緩んだようだ。彼女はひと呼吸置くと、改めて話し始め、徐々に日本語が滑らかに口から出るようになった。

初めてのオンライン読書会は、歓声の中で無事終了した。

あれから早くも一年が過ぎ、春麗らかな日の訪れとともに、また読書会の季節になった。卒業を間近に控えたわたしは、忙しい日々に追われていた。

そんなある日、先生から「桜便り」が送られてきた。今度は、名もない桜の写真とともに、前回の読書会の小冊子が同封されていた。今までと違い、最後の部分に参加者の感想が綴られていた。わたしは、参加者一人一人の感想に目を通してみた。

「……楽しみにしていた留学生活が、外出自粛で半年間も友達ができませんでした。でも、今回のオンライン読書会で、同じく読書好きな友人が増えただけでなく、司会のおかげで、人見知りなわたしも緊張せずに発表できました…」

彼女の言葉で、初めて届いた桜便りのことを思い出した。

「これからも読書会で新しい絆が生まれ、桜便りがずっと届きますように。」

ポストコロナの今も、相変わらず渡航もできない留学生もいれば、外出自粛中の日本人学生もいる。それらが孤立を余儀なくされ、焦りや苛立ち、不安を抱える中で、オンラインという新たな形式は、空間を越え、孤立した多くの個を見えない線でつなぎ、絆を紡いでくれた。オンライン読書会という小さなグローバルコミュニケーションの場は、私たちにポストコロナを力強く生き延びる力と勇気を与えてくれたような気がする。

次回の読書会は夏の開催だという。今から新たな出会いを楽しみにしている。

指導教師：王頤 林工

機関関係

(1) 2020(令和2)年度事業報告

1. 教育交流・派遣事業

2020年度は、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齢基金会との協議の中で行い、新5か年計画をスタートさせる予定でした。今まででは、年度初め早々に役員による事務局レベルの派遣を行い、新5か年計画の予備調査・事前協議を行っていました。また、その後に視察研修訪中団を組織する中で候補地を訪れ、当財団と中国宋慶齢基金会そして現地の教育局との協議の中で、「新教育交流プロジェクト」の対象と教育交流派遣・受入・支援の内容について決定していました。しかしながら、「コロナ禍」の中で、そういった従来の方法はかないませんでした。そこで、中国宋慶齢基金会の劉所長と連絡を取り合い、いくつかの候補地をあげてもらしながら検討を進めてきました。その結果、「河北省保定市阜平県を第一候補地として、今後の段取りを組んでいこう」と言うことになりました。阜平県に絞り込むについては、基金会から送られてきた下記の様な資料（他の候補地についても同じように紹介された）を参考にしながら、協会としてもインターネット等で調べ、数回の協議を重ねる中で行いました。

阜平県

阜平県は中国河北省保定市に属している。山奥の貧しい地区で、抗日戦争と解放戦争の革命地区でもある。非常に貧しい地区として、習近平国家主席が何度も訪れたことがある。北の北京から275キロ、南の河北省首都の石家庄市から110キロ、西の佛教名所五台山から78キロである。昔から「90パーセントの山と5パーセントの水と5パーセントの畑からなっている」と言われている。人口は30万人未満である。現在、県内の各種の学校は107校で、専門教師は2895人、学生は44454人である。義務教育はバランスを取って発展させている。高校教育もだいたい普及されている。2020年は中国の貧困脱却決戦の年で、阜平県はやっと2月29日までに脱却できた。

（基金会からの資料の一部）

2. 教育交流・受入事業

今後の取り組みの中で、「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定し、交流の内容が具体化する中で、「第6次宋慶齢基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していこうということになりました。中国においては、上記の資料の内容でも触れているように、地域格差の問題が教育にも大きく影響を及ぼしているようです。そうした中で、「日本に学びたい」という要望が大きいと聞きます。先の5か年計画でも、当初1回で計画していた教育交流団の受け入れを、中国側からの強い要望で計画を変えて2回実施しました。今後の取り組みの中で、教育交流団の受け入れについて具体化していきたいと考えています。

3. 教育交流・支援事業

今後の取り組みの中で、「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定し、交流の内容が具体化する中で、現地の教育局・学校側との話し合いを通じて、より要望のある意味ある教育交流支援を行っていこうと考えています。支援の規模としては、「新たな教育交流プロジェクト」においても、前回の5か年計画と同じように、100万円／年で行っていこうと計画しています。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 「第9回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウィルス感染拡大にかかる様々な影響（留学生が日本に来れない）で、「今年度は実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。
- ② 今年度初めての試みとして、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施しようという計画でしたが、これも「コロナ禍」で進みませんでした。近年、中国に次いで日本への留学生が多いベトナムについて、ベトナム大使館へコンタクトを取る段階まで話が進んだのですが、それ以上具体化できませんでした。今後、新型コロナウィルス感染の動向を見ながら積極的に進めようと考えています。
- ③ 「第5回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまく関わりを持

たせながら開催してきましたが、昨年度と同様に、作文コンクールの最優秀賞者が中国から来日できず、また、留学生も参加しての学習会が今まで通りに開催できるよう条件が整わずに中止することとなってしまいました。「大変意味のあるシンポジウムで今後の取り組みに大いに期待する」というようなご意見ご感想を多数いただきましたし、今後は中国大使館からも参加していただこうと考えていた矢先だったので、大変残念でしたが、来年度こそは開催をと考えています。

- ④ 「第16回日本語作文コンクール」については、今年度も協会は積極的にこの事業を後援し、審査に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。今回の作文のテーマは、（一）新型肺炎と闘った中国人たち—苦難をいかに乗り越えたか（二）新型肺炎から得られた教訓や学んだこと（三）ありがとうと伝えたい—日本や世界の支援に対してでした。中国各地の180の大学・専門学校・高校等から計3438作品の応募があり、中国の若者たちのリアルな声がたくさん寄せられました。（一）のテーマへの応募は1691本、（二）のテーマへの応募は1368本、（三）のテーマへは379本でした。本年度の教育賞は、二人とも（一）のテーマで、李玲玲（安徽師範大学）「許さんと父の遺言」・陳朝（清華大学）「団地の北門」でした。

5. その他の活動

- ① 今年度は理事会を4回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染予防措置として、すべて書面議決となりました。そのために、理事会に於ける「代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告」については、取りあえず書面で行い、今後開かれる一番早い理事会の折に正式に報告することとしました。
- ② 広報関係では、2021年3月に『会報27号』を発行しました。「共生力」は、コロナ禍で具体的な取り組みができなかつたため発行しませんでした。
- ③ 財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行っています。

（2）2020（令和2）年度事業・会議報告（2020年4月1日～2021年3月31日）

2020年

4月2日（木）	事務局打ち合わせ（内閣府対応・会報26号配布について）
6日（金）	事務局打ち合わせ（第1回監査会）
7日（火）	役員打ち合わせ—コロナウイルス感染拡大のため延期 事務局打ち合わせ（今後の取り組み等）
9日（木）	事務局打ち合わせ（第40回理事会・第22回評議員会・今後の取り組みについて等）
15日（水）	事務局打ち合わせ（会計事務所と決算について・中国宋慶齡基金会との次期プロジェクトについて・会報26号発送準備その他）
16日（木）	事務局打ち合わせ（理事・監査・評議員等について） 会報26号発送
27日（月）	会計事務所と打ち合わせ（2020<令和2>年度決算・監査について）
5月11日（月）	事務局打ち合わせ（会計監査の最終確認）
13日（水）	2020（令和2）年度 第1回監査委員会（財団事務所）
18日（月）	第40回理事会（書面）議案書発送
28日（木）	第40回理事会議決日 事務局打ち合わせ（第22回評議員会開催通知の発送）
6月8日（月）	事務局打ち合わせ（内閣府申請について）
9日（火）	内閣府申請
12日（金）	第22回評議員会議決日 事務局打ち合わせ（第41回理事会について・第41回理事会議案書発送）
19日（金）	内閣府申請書類の確認
22日（月）	第41回理事会議決日 事務局打ち合わせ（内閣府提出文書・協会役員名簿の作成、中国宋慶齡基金会との打ち合わせ）
26日（金）	事務局打ち合わせ（内閣府提出文書・法務局登記書類等について）
29日（月）	事務処理（内閣府電子申請提出・登記—法務局）

7月1日（水）	事務局打ち合わせ（賛助会費） 事務処理（税務関係手続一税務署）
6日（月）	事務局打ち合わせ（賛助会費領収書・礼状発送・中国宋慶齡基金会との打ち合わせ）
10日（金）	労働保険申告、登記申請
15日（水）	法務局と登記についての確認 山東省海外国際旅行社より「対話山東青島市中日都市提携交流会」「対話山東及び日本・山東産業協力交流会」への参加紹介
16日（木）	事務処理（辞任届送付・議事録送付）
17日（金）	事務局打ち合わせ（役員の交代・中国宋慶齡基金会との新たなプロジェクト）
29日（水）	第16回日本語作文コンクール（日中交流研究所主催）最終審査
8月3日（月）	事務局打ち合わせ（ホームステイ中止等）
7日（金）	事務処理（印鑑届等）
17日（月）	事務処理（中国宋慶齡基金会との打ち合わせ）
20日（木）	法務局（謄本取得）
27日（木）	第16回日本語作文コンクール審査採点表の送付及び教育賞2名を推薦（日中交流研究所へ）
9月2日（火）	事務処理（法務局・賃貸契約更新書送付）
3日（水）	事務処理（銀行名義変更）
7日（月）	事務処理（年会費請求書類等）
9日（水）	事務局打ち合わせ（会員・賛助会員名簿チェック・書類発送）
14日（月）	事務処理（年会費）
24日（木）	事務局打ち合わせ（取り組み・年会費・賛助会費領収書礼状発送）
28日（月）	事務局打ち合わせ（今後の取り組み・中国宋慶齡基金会との打ち合わせ・年会費及び賛助会費について）
10月7日（水）	事務処理（年会費・賛助会費領収書礼状発送）
13日（火）	セキュリティーソフト入れ替え・セットアップ（ゼロックス）
14日（水）	中国宋慶齡基金会との打ち合わせ、中国人留学生との教育交流打ち合わせ（フジ語学院と）
16日（金）	事務処理、中国宋慶齡基金会との打ち合わせ
23日（金）	事務処理（ゼロックス注文書・リース手続等）
28日（水）	ホームページ更新
11月13日（金）	事務局打ち合わせ（当面の取り組み・役員打ち合わせ会について）
16日（月）	ホームページ更新
26日（木）	事務処理（年会費）
27日（金）	役員打ち合わせ会（中村・黒田・赤岡）－延期
12月3日（木）	事務処理（ジェイリース契約・年末調整）
9日（水）	事務処理（ゆうちよ取引申告・人材マッチング調査）
11日（金）	事務処理（ジェイリース契約書類送付）
17日（木）	事務局打ち合わせ（年賀状等・中国宋慶齡基金会との打ち合わせ）
22日（火）	第16回日本語作文コンクール教育賞受賞者2名の決定・第17回日本語作文コンクール開催についての確認・第5回日中教育文化交流シンポジウムの開催についての検討（日中交流研究所と）
24日（木）	事務処理（会計・源泉徴収票送付等）
28日（月）	年末事務処理・仕事納め
2021年	
1月7日（木）	年始事務処理・仕事始め
22日（金）	事務局打ち合わせ（中国宋慶齡基金会との打ち合わせ）
2月2日（火）	内閣府への電子申請完了
7日（日）	事務局打ち合わせ（2021<令和3>年度予算編成について）
10日（水）	第42回理事会（書面議決）書類発送 第16回日本語作文コンクール教育賞（5万円×2人）送金

15日（月）	日中交流研究所と今後の取り組みについて打ち合わせ 事務局打ち合わせ（第43回理事会・第23回評議員会について）
18日（木）	2021（令和3）年度予算について打ち合わせ（パートナー会計事務所と） 役員打ち合わせ・事務局打ち合わせ（第43回理事会・第23回評議員会・2021<令和3>年度予算について・中国宋慶齡基金との打ち合わせ）
22日（月）	第42回理事会決日
3月1日（月）	第43回理事会・第23回評議員会通知発送
2日（火）	会計事務所との打ち合わせのためにリモート機器の設置
3日（水）	2021（令和3）年度予算について会計事務所との協議（パートナー会計事務所とリモートで）
8日（月）	第43回理事会・第23回評議員会出欠確認 第43回理事会・第23回評議員会書面議決の決定と議案書等送付
17日（水）	第43回理事会・第23回評議員会議決日
25日（木）	会報27号発行
30日（火）	2021（令和3）年度事業計画・予算内閣府提出

（3）2021（令和3）年度事業計画案

協会は今年度も、教育交流派遣事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる山東省泰安市における「教育交流プロジェクト」の推進を中心に、草の根教育交流をより深く、多様に発展させることができました。「視察研修訪中団」の派遣、「第5次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れと、「第4回音楽教育交流会」で、大きな成果をあげました。また、教育交流研究等助成事業として第8回となる中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業は、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪を広げています。残念ながら、「第5回教育交流シンポジウム」の開催は、新型コロナウィルスの流行により中止せざるを得ませんでしたが、今後とも「日本語作文コンクール」の後援との関わりを持たせながら取り組んでいきたいと思っています。来年度は、懸案になっていた「田中一郎記念奨学基金」による取り組みとして、主に東南アジアからの留学生を対象とした奨学金取り組みとして、「留学生に日本語作文コンクール」を実施したいと考えています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2021（令和3）年度は下記の教育交流事業を推進します。

1. 教育交流・派遣事業

- ① 「新たな教育交流プロジェクト」の実施の選定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行います。
- ② 「新たな教育交流プロジェクト」の内容を決定するために、「視察研修訪中団」の実施を行います。

2. 教育交流・受入事業

- ① 第6次宋慶齡基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。
- ② 中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

3. 教育交流・支援事業

- ① 1年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト」のもとに行います。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 第9回教育交流ホームステイを実施します。
- ② 「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施します。
- ③ 教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第5回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
- ④ 第16回日本語作文コンクール（日本橋報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

5. 機関運営などに関して

- ① 理事会、評議員会を年2回、監査委員会を年1回、各委員会、事務局会を随時行います。
- ② 年会報27号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
- ③ 事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。

（4）2021（令和3）年度収支予算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

（単位：円）

科 目	3年度予算案額	2年度予算案額	2年実績見込み	増減 A-B	備考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
基本財産運用収入	3,000	3,000	3,000	0	
② 特定資産運用収入	1,302	1,302	1,302	0	
(公1) 訪中派遣費用準備資金	230	230	230	0	
(公2) 訪日受入事業準備資金	128	128	128	0	
(公3) 教育交流支援費用準備資金	100	100	100	0	
(公4) 田中一郎記念奨学基金	844	844	844	0	
(共通) 教育交流積立金	0	0	0	0	
③ 会費収入	7,279,000	7,520,000	7,279,000	△ 241,000	
1. 団体会費収入	7,140,000	7,310,000	7,140,000	△ 170,000	
2. 個人会費収入	90,000	110,000	90,000	△ 20,000	
3. 貢助会費収入	49,000	100,000	49,000	△ 51,000	
④ 寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤ 事業収入	640,000	640,000	0	0	
1. 教育交流・派遣事業	500,000	500,000	0	0	50,000×10
2. 教育交流・受入事業	0	0	0	0	
3. 教育交流・支援事業	0	0	0	0	
4. 教育交流・研究助成事業	140,000	140,000	0	0	20,000×7(ホームステイ)
⑥ 雑収入	0	0	19	0	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	0	0	19	0	
事業活動収入合計	7,923,302	8,164,302	7,283,321	△ 241,000	
2. 事業活動支出				0	
① 事業費支出	8,305,500	8,305,500	7,183,615	0	
(1) 教育交流・派遣事業	4,347,000	4,347,000	1,947,280	0	
1. 役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	会議会場費 飲食代など
4. 交際費	30,000	30,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
5. 旅費交通費	3,500,000	3,500,000	1,190,812	0	訪中(打合せ4名・視察10名)・職員交通費(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	36,766	0	保守料金・電話料金(3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	1,296	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	11,640	0	ゼロックスカウント料(3か月)
9. 貸借料	135,000	135,000	132,978	0	総額の約12分の3
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	50,000	50,000	33,788	0	
14. 雑費	20,000	20,000	0	0	
(2) 教育交流・受入事業	517,000	517,000	2,294,796	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	
5. 旅費交通費	7,000	7,000	1,709,423	0	職員交通費(2か月)
6. 通信運搬費	30,000	30,000	23,655	0	保守料金・電話料金(2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	18,394	0	ゼロックスカウント料(3か月)
9. 貸借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
12. 研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13. 謝金	0	0	94,664	0	
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
(3) 教育交流・支援事業	1,529,500	1,529,500	1,512,826	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ 委員会 参加者会議 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	10,500	10,500	10,500	0	職員交通費(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	22,605	0	保守料金・電話料金(3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	10,000	5,022	0	ゼロックスカウント料(3か月)
9. 貸借料	90,000	90,000	107,699	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齡基金との共同プロジェクト
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	10,000	10,000	7,000	0	送金手数料など
(4) 教育交流・研究等助成事業	1,312,000	1,312,000	926,335	0	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	100,000	100,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	5,000	5,000	0	0	事務所来客用お茶、土産等
5. 旅費交通費	95,000	95,000	69,545	0	職員交通費(2か月) ホームステイ、シンポジウム旅費等
6. 通信運搬費	30,000	30,000	30,000	0	保守料金・電話料金(2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	

科 目	3年度予算額	2年度予算額	2年実績見込み	増減 A-B	備 考
8. 印刷製本費	10,000	10,000	8,507	0	ゼロックスカウント料(3か月)
9. 貸借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	550,000	550,000	369,623	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(懇親会含む)など
13. 謝金	70,000	70,000	0	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
共通	600,000	600,000	502,378	0	
1. 役員報酬	0	0	0	0	
2. 給料手当	0	0	0	0	
3. 会議費	10,000	10,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	10,000	10,000	9,688	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	100,000	100,000	81,024	0	役員国内交通費 委託先訪問時ほか
6. 通信運搬費	180,000	180,000	120,000	0	切手代 賛助会費発送代 封筒代 資料送付等
7. 消耗品費	20,000	20,000	15,386	0	
8. 印刷製本費	250,000	250,000	250,000	0	年会報印刷代
9. 貸借料	0	0	0	0	
10. 委託費	30,000	30,000	26,280	0	HP使用料ドメイン使用料
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研修助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	0	0	0	0	
② 法人費支出	2,251,000	2,251,000	2,125,739	0	
1. 役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 法定福利費支出	5,000	5,000	3,624	0	
4. 会議費支出	70,000	70,000	55,000	0	理事会 評議員会等会場費 打ち合わせなど
5. 交際費支出	50,000	50,000	11,080	0	慶弔費など
6. 旅費交通費支出	400,000	400,000	350,120	0	理事会 評議員会旅費など
7. 通信運搬費支出	45,000	45,000	34,648	0	保守料金・電話料金(3か月)
8. 消耗什器備品費支出	10,000	10,000	99,684	0	パソコン資金など
9. 消耗品費支出	10,000	10,000	4,423	0	修繕費を含む
10. 印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11. 貸借料支出	215,000	215,000	184,730	0	総額の約12分の3 更新料、家財保険料、保証料他
12. 租税公課支出	5,000	5,000	1,900	0	
13. 委託料支出	850,000	850,000	824,640	0	日本パートナーズ会計など
14. 雑支出	50,000	50,000	15,890	0	
事業活動支出合計	10,556,500	10,556,500	9,309,354	0	
事業活動収支差額	△ 2,633,198	△ 2,392,198	△ 2,026,033	△ 241,000	
II 投資活動収支の部			0		
1. 投資活動収入			0		
① 基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入			0	0	
② 特定資産取扱収入	3,400,000	3,400,000	10,020,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	400,000	400,000	1,500,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	2,000,000	2,000,000	3,000,000	0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	0	0	520,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金			4,000,000	0	
(共通)教育交流積立金			0	0	
投資活動収入計	3,400,000	3,400,000	10,020,000	0	
2. 投資活動支出			0		
① 特定資産取得支出	500,000	500,000	9,100,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	500,000	500,000	500,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金			2,000,000	0	
(公2)訪日受入事業準備資金			1,000,000	0	
(公3)教育交流支援費用準備資金			0	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金			4,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金			1,600,000	0	
(共通)教育交流積立金	0		0	0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③ その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	500,000	9,100,000	0	
投資活動収支差額	2,900,000	2,900,000	920,000	0	
III 財務活動収支の部			0		
1. 財務活動収入			0		
財務活動収入計			0		
2. 財務活動支出			0		
財務活動支出計			0		
財務活動収支差額			0	0	
IV 予備費支出	400,000	800,000	100,000	△ 400,000	31年実績：PC購入
当期収支差額	△ 133,198	△ 292,198	△ 1,206,033	159,000	
前期繰越収支差額	2,000,000	3,200,000	2,377,139	△ 1,200,000	
次期繰越収支差額	1,866,802	2,907,802	1,171,106	0	
V 当期一般正味財産増減額の部				0	
一般正味財産期首残高(見込額)	59,480,000	60,440,000		△ 960,000	
一般正味財産期末残高(見込額)	56,846,802	58,047,802		△ 1,201,000	
VI 当期指定正味財産増減額の部				0	
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
VII 正味財産期末残高(見込額)				0	

(5) 2021(令和3)年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

< 2022(令和4)年3月1日現在 >

評議員(8名)

井上 定彦

理 事(7名)

赤池 浩章

内山 靖行

赤岡 直人(業務執行理事)

大川 正勝

天野 博史

黒田 文男

朽見 誠二

林 裕司

中村 武志(代表理事)

福井 太一

前嶋 德男

別所 勝也

政金 正裕

山中 小白

興石 東

監 事(2名)

鈴木 伸昭

生井 栄一

山門 真

公益事業審査委員(5名)

初岡 昌一郎

樋口 弘夫

田中 正志

小串 吾郎(評議員)

赤岡 直人(理事)

協会の歩み

設立 1991年1月
1992年財団法人認可
2010年8月5日公益財団法人認定
公益財団法人移行 2010年8月9日
創立者 田中一郎（初代理事長）
理事長 生井榮一（第2代）
代表理事 黒田文男（第3代2010年4月～現在）

教育交流・派遣事業

1992 私立学校教職員訪中団（北京、大連）、第1次教育訪中団（北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見）
1993 第2次教育訪中団（北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見）
1994 第3次訪中団（昆明、成都）
1995 第4次教育訪中団（ウルムチ、トルファン）、協会理事訪中団（北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問）
1996 第5次教育訪中団（濟南・青島、蘇州）
1997 第6次教育訪中団（日中國交正常化25周年、財團設立5周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見）
1998 第7次教育訪中団（北京、ハルビン、長春）
1999 第8次教育訪中団（南京、杭州、上海）
2000 第9次教育訪中団（昆明、大理、麗江）
2001 第10次教育訪中団（西寧、西安）
2002 第11次教育訪中団（日中國交正常化25周年記念。南寧、桂林）
2004 第12次教育訪中団（北京、承德）
2006 第13次教育訪中団（北京、天津）
2007 第1期安東自由大学参加団（韓国・安東市）
2008 第14次教育訪中団（北京、河北省易県）
第2期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2009 第3期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2010 第15次教育訪中団（北京、河北省易県）
2011 第5期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2012 第6期安東自由大学参加団（韓国・安東、大邱、ソウル）
2013 第7期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2014 第16次教育訪中団（上海・南京）
2015 視察研修訪中団（北京・泰安市東平県）
2016 第1回日中音楽教育交流会（北京・泰安市東平県）
2018 第17次教育訪中団（北京・泰安・青島）第3回日中音楽教育交流会（泰安市等東平県）
2019 視察研修訪中団（北京）

教育交流・受入事業

1992 中国教職員訪日代表団（東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡）
1993 寧波市訪日団（東京、茨城、群馬、千葉）、常州市訪日団（兵庫、福井、三重）、寧夏自治区訪日団（愛知、富山、新潟）、中国教育国際交流代表団（東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談）

1994 江蘇省小学校長訪日団（神奈川、山梨、静岡）
1995 湖南省訪日団（愛知、静岡、三重）、蘇州市訪日団（千葉、神奈川、山梨）
1996 モンゴル赤峰市職業教育代表団（東京、北海道）、常州市訪日団（千葉、山梨、東京）卒業生就職指導訪日団
1997 日中國交正常化25周年、財團設立5周年記念教育交流訪日団（東京、愛知、三重）
1998 蘇州市・昆山市訪日団（東京、福井、千葉）常州市訪日団（東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪）
1999 北京市第二実験小学校訪日団（東京、神奈川、京都、大阪）中国優秀教師訪日団（東京、静岡）
2000 雲南教育学会訪日団（東京、山梨、千葉）
2001 中国教育交流訪日団（東京、山梨、奈良、京都、大阪）
2002 中国特殊教育工作者代表団（東京、三重）
2003 北京市崇文区教育関係者訪日団（東京、山梨）
2006 協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団（東京）遼寧省体育訪日団（東京、神奈川、滋賀、大阪）
2008 中国宋慶齡基金会教育代表団（第1次）（東京、静岡、愛知、京都）
2009 中国宋慶齡基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011 協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齡基金会教育代表団（第2次）（東京、神奈川）
2012 中国宋慶齡基金会唐聞生副主席、協会を訪問
2013 第3次宋慶齡基金会教育交流代表団（三重、京都）
2017 第4次宋慶齡基金会教育交流代表団（静岡）
第2回日中音楽教育交流会（静岡）
2019 第5次宋慶齡基金会教育交流代表団（山梨）第4回日中音楽教育交流会（山梨）

教育交流・支援事業

1996 雲南省災害教育復興資金（100万円）を贈る。
1998 長江水害見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金（50万円）を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006 協会代表、中国宋慶齡基金会、河北省易県を訪問。
2007 生井理事長が中国宋慶齡基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台（総額200万円）の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008 四川大地震に対し、見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金（50万円）を宋慶齡基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金（50万円）をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に關し、本部奨励金（100万円）を受ける。
2009 第1回音楽教師養成セミナー参加（北京、河北省易県）
2010 第2回音楽教師養成セミナー支援・参加（70万円）
2011 第3回音楽教師養成セミナー支援・参加（100万円）。東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附（100万円）。

2012 協会代表（黒田代表理事）以下4名が中国宋慶齡基金会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第4回音楽教師養成セミナー支援（250万円）。

2013 第5回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら8名参加）。

2014 協会代表（黒田理事長）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問。第5回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金。

2015 協会代表（黒田理事長）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2016 協会代表（黒田理事長）以下6名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2017 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2018 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2019 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。

2021 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）。

教育交流・研究等助成事業

1995 中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける

1997 協会設立5周年記念教育交流集会・レセプション（東京）

1999 韓国中学校教育協議会名誉会長巣圭白博士と田中会長・理事長会見

2001 中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧間に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）

2002 日中國交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）

2006 協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）

2007 第3回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。

2008 第4回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。

2009 第5回「中国人の日本語作文コンクール」後援。

2010 第6回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2011 第7回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテスト協賛。

2012 第1回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施。第8回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテスト協賛。

2013 第2回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第9回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2014 第3回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2015 第4回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第1回教育交流シンポジウム開催。

2016 第5回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第2回教育交

流シンポジウム開催。

2017 第6回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第3回教育交流シンポジウム開催。

2018 第7回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第4回教育交流シンポジウム開催。

2019 第8回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2020 第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

2021 第17回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。

（2022年3月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1971年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

1 派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

2 受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

3 支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

4 研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員 年会費 一口 5,000円

団体会員 年会費 一口 10,000円

賛助会員 年会費 一口 3,000円

寄付金 隨時

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

相変わらずコロナウイルスが、世界中の人々の生活に悪影響を及ぼしています。「何時になつたら…」と、そんな思いが続いている残念な状況です。一日も早い終息を願うばかりです。そうした中にあって、本来は「人々の平和で安心な生活」を希求すべき政治は混乱が続き、格差と分断を助長し、我が国を含め世界的に不安定さを増していると思います。中東・アフリカ・中南米等の混乱、EUとロシアをめぐる情勢、中国との関係に起因する世界的な政治情勢の不安定化、不透明な朝鮮半島情勢、東・南シナ海における中国と周辺諸国間での領土問題等、とりわけ日本と中国との間の領土問題等の不安定要素について、今後の展開について注視していかなくてはならない状況が続いています。そのような情勢の中で、当協会の事業につきましては、大変大きな意義を持つものとして各方面から評価され取り組みを進めてきたところです。しかしながら、コロナ禍の中で宋慶齡基金会との「新たな5か年計画プロジェクト（派遣・受入・支援）」につきましては、河北省保定市阜平県との教育交流を進めることになりましたが、訪中ができない状況の為に、具体的な活動に移ることができません。また、中国からの留学生と日本の教職員家庭との交流を通して大きな成果を上げてきた「教育交流ホームステイ」は、緊急事態宣言を受け実施を断念しました。何とか教育交流活動を実施するために、今後も中国と連絡を取りながら、様々な形を試しながら取り組みを行っていこうと考えています。

「世界の平和、人類の共生のために、しっかりとした民間レベルでの人と人とのつながりをつくる」、そんな東アジアを中心とする教育交流事業の推進に、これからも努力を重ねて参りたいと考えています。ご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第28号】

2022年（令和4年）3月25日発行

発行人…中村武志 表紙題字…田中一郎（創立者） 印刷…（株）アートプリント

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533 Fax.055-269-6534

HP : <http://ajciee.or.jp/>